



X-salon (クロスサロン) の可能性 人間的な成長をもたらす、新しい旅のスタイル

国土交通省 北海道開発局
帯広開発建設部 次長 実重 貴之

<人生観を変える旅>

皆様は、旅で人生観が変わったことはありますか。「ある」という方もいれば、「たった一回の旅で人生観まで変わらない」という方もいらっしゃると思います。

正直に申し上げますと、人生観を変えることは簡単なことではありません。なぜなら、大人であれば、それなりに自分というものの輪郭が固まってきているからです。私たちは、社会的な地位や様々な人たちとの関係性の中で、自分の人となりや役割は、ある程度、固定化されています。そうやって確立した自分自身のペルソナ（人格）は、ちょっとした刺激ぐらいでは揺らがないでしょう。

それでも、世の中には人生観を変えたいと思っている人たちが一定数います。そんな方々のニーズを満たし、簡単とはいいがたい「自己変革」を起こすためにはどうしたらよいのでしょうか。

結論からいえば、なるべく自分の日常から離れ、そこで能動的になることが必要かと思えます。

日常とは、ある種「効率」です。毎日刺激的な体験ばかりをしていたら、気が休まりません。ルールやルーティンを作り、それをこなしていくことにより、効率的に日々を過ごすことができます。生きるために不可欠なことです。

ですが、効率性を追求するあまり、私たちは様々なことをショートカットしています。たとえば、食事です。コンビニに行けば、弁当が売っています。その弁当は、誰かが調理をしたものですし、調理するにあたって使う食材はどこかの農家が生産したものですし、その農家が生産するにあたって使うトラクターはどこかの工場で作られたものですし…。このように考えると、コンビニ弁当一つとっても、実は人間の活動や自然の働きといった様々な連鎖の上に生活が成り立っているのです。

「こんな感じで想像力を及ばせよ」と命じられたら、やれないことはないでしょう。ですが、どこかモチベー

ションがあがらないかもしれません。

そんな中、旅は、自発的に穏当な「想像」を巡らせるお手伝いをしてくれます。効率的な日常から離れて、あえて非効率なことをすることにより、普段とは違う思考回路が開通します。それはある種、成長であり、自己変革なのだと思います。

つまり、旅は人生観を変える可能性があるのです。

<アドベンチャートラベル>

このように、自己変革をもたらす旅として、近年注目を集めているのが、アドベンチャートラベルです。

世界100カ国、1400機関以上の会員を有するアドベンチャートラベル業界の団体である Adventure Travel Trade Association (ATTA) は「自然」「異文化体験」「アクティビティ」のうち2つ以上の要素を持つ旅行を、アドベンチャートラベルと定義づけています。

これはその通りだと思いますが、この字義だけを満たす旅行は既に結構たくさんあります。アドベンチャートラベルが他の旅行と異なるポイントは、「超能動性」だと私は考えております。旅に超能動的に参加することで、何かをつかみ取ることができるのです。その超能動性を創出するノウハウが詰まっているという点が、この旅行形態が注目されている理由です。

そのノウハウはここでは詳しく説明しませんが、

- ・旅全体を通じて一貫したストーリー
- ・ワクワクさせるようなガイドイング
- ・体を動かすこと

などがあると思っていただけたらと思います。

自然、文化、産業など、その地域にしかない要素を超能動的に味わい尽くすのがアドベンチャートラベルです。その超能動性は、時に私たちの人生観を変えるぐらいの感動体験となります。



【資料】筆者作成

<X-salon>

今回、紹介するX-salon（クロスサロン）は、アドベンチャートラベルよりもさらに「自己変革」に特化したものです。

アドベンチャートラベルは、確かにその瞬間、超能動的な体験をすることにより、何か強烈な感情を呼び起こします。しかし、その感情と向き合わないまま旅を終えると、再び日常に戻ってしまいがちです。実際、アドベンチャートラベルをしたけど、「自己変革」が生じなかったという声も聞きます。

だから、X-salonでは、旅の中で感じた感動や衝撃をしっかりと「言語化」することを重視します。旅の中で内省の時間を設けて、「何に感動したのか」「何故感動したのか」「自分の価値観と比較して何が異なるのか」ということを考えてもらうのです。

それだけではありません。X-salonでは、「他人」の力を最大限活用します。バックグラウンドの異なる「他人」同士がナチュラルに交わることで、それを私たちは「クロッシング (crossing)」と呼びます。

では、「他人とクロッシングする」とは、どういうことでしょうか。

X-salonでは、1回のツアーにつき、参加者は10名前後を想定しますが、参加者同士は互いに顔を知った者がいないように設計することを心がけています。

ここが普通の旅とは少し異なるところです。普通の旅なら大体、家族や友人といった間柄の方と一緒に行くか、一人で行くかのいずれかです。旅先で出会った

「他人」と、積極的な交流をするというのはなかなかない経験だと思います。

しかも、その際、素性はなるべく開示しないように参加者には願っています。会社名や役職、仕事内容などを明かしてしまうと、無意識に関係性ができてしまうとともに、仕事モードという「日常」から抜け出せない可能性があります。だから素性を言わずに等身大の自分でコミュニケーションをしてもらいます。

もちろん、簡単なことではございません。それでもちゃんと交流できるのは、旅の中で強烈な体験をすることで共通の話題ができるからなのです。

さらに、旅で得られた感動や衝撃を内省してもらった後、他人と対話する時間も設けます。これにより、自分の考えをアウトプットすることができますし、他人の意見を聞いて新たな発見もあるかもしれません。

つまり、X-salonは、アドベンチャートラベル（超能動的な旅 = 遊び）がベースなのですが、それに「他人」という鏡を利用して自己に迫ることで、より一層「自己変革」の起こる確率が高くなるというカラクリなのです。

ここで一度まとめます。

X-salonとは、「自然の中で他人と遊ぶことで、能動的かつ自発的に人間的な成長を導き出す新たな人材育成の場」です。

その特徴は

- ① 五感を研ぎ澄ます地域ならではの体験
 - ② 日頃交わることのない他人と交流
 - ③ 内省と対話を通じて体験を自分の血肉にする
- というところにあります。

なお、①の部分はアドベンチャートラベルと同義だと思っていただけたらわかりやすいと思います。X-salonはそれに②、③が加わっているという点がポイントです。

X-salonの特徴



五感を研ぎ澄ます
地域ならではの体験
(自然、文化、産業)



日頃交わることのない他人と交流



内省と対話
を通じて体験を
自分の血肉にする

【資料】X-salon構想共創チーム

<デスティネーション十勝の提供するX-salon>

では、実際、どのような内容なのか、実際にX-salonを催行している(株)デスティネーション十勝のツアーの一部を紹介いたします。このツアーでは、互いに顔を知らない他人同士で、北海道十勝地方を旅してもらいます。

とかち帯広空港に降り立った後、まず行うのはカーリングです。なぜカーリングなのか。ここ十勝はカーリング元日本代表を生み出した地というのがありますが、それだけではありません。このツアーにおいてカーリングは非常に大事な役割があります。ほぼ全員が初心者なのでスキルに個人差がない上に、少し練習をすれば試合ができるレベルにまでなり、しかもコミュニケーションを円滑にします。初めて会う他人同士が協力しあうには、ちょうどいいスポーツなのです。

こうして始まったツアーは、十勝でチャレンジな取組をしている生産者のところに訪問したり、この地で作られた食べ物を堪能したり、雄大な自然の中でフライフィッシングを楽しんだり、焚き火を囲いながら語り合ったり、一緒にサウナに入ったりします。そのどれもが、十勝の自然・歴史・文化・産業に紐付いた、この地域ならではの価値を感じてもらえるものです。

最初は探り探りで築いていた参加者同士の関係性も、時間の経過とともに、心の内奥を通じたコミュニケーションに変化していき、最後には「生きるとは?」「幸せとは?」という哲学的な話にまでたどり着くこともあるそうです。

前述のとおり、X-salonは「他人」を重視します。

この「他人」の意味合いとしましては、もちろん、参加者同士が初対面であるということもそうなのですが、旅先で出会う他人との交流も含まれます。つまり、十勝在住の他人です。

デスティネーション十勝のツアーでは、魅力的な他人のところに連れて行ってもらえます。それは、150年以上前、十勝を開拓していった先祖たちのフロンティアスピリットを受け継ぎながら、現状に満足せず、信念をもって新しい豊かさを追求する人たちです。

自然の中で、五感を研ぎ澄ましなが、錆びついてきた知覚に潤いを与え、日常生活の思考回路ではたどり着けなかった未知の領域に足を踏み入れていくような感覚を得られるかと思えます。

(株)デスティネーション十勝の荒井 専務取締役は「十勝に来ると身長が伸びる」と言います。これは最初うつむきがちだった方が、旅に参加し、十勝でいろいろな体験をするうちに、気分が浄化され明るくなり、終わり際には背筋が伸びたように見えることがあるという意味です。もちろん、比喩的な表現ですが、それぐらい、この旅は参加者に何かを与えるようです。

詳細は、大阪関西万博のテーマウィーク「人材育成×観光=X-salon構想の実現に向けた全世界的共創」の中で、雰囲気わかる映像とともに、ツアーに込めた思いを紹介していますので、こちらのアーカイブ動画をご覧くださいいただけると思えます。



【写真】(株)デスティネーション十勝
【QRコード】大阪関西万博アーカイブ動画



<X-salonが地域にもたらすもの>

ではX-salonを実施すると、地域にどのような効果をもたらすのでしょうか。

まずは経済効果です。一般的な旅行においても、旅行が催行されれば、その地域にお金が落ちます。ですが、旅行者が使ったお金の全てが地域の所得になるわけではありません。地域が潤うためには、地域に還元される割合が大事ですが、アドベンチャートラベルやX-salonはその率が高いことで知られています。

さらに、これまで観光資源として知られてこなかったものをコンテンツ化するので、そこに付加価値が生まれます。たとえば、農業やインフラ建設など、地域の産業に従事している人の話を聞く、というのもコンテンツになります。原価はほとんどかからないにもかかわらず、参加者の多くはそこに高い価値を見だし、高額を払ってくれます。

また、参加者の多くは地域にディープに関わるため、愛着を持ちます。旅から帰った後も、ふるさと納税をしたり、地域産品を定期購入したり、投資をしたり、新たなビジネスをしたりするかもしれません。

普通の旅では、タビナカでの消費が地域における経済効果の全てで一過性のものですが、X-salonはタビナカも継続的に地域への経済効果が続きます。

経済効果だけではありません。それなりに意識の高いビジネスマンがその地域を訪れ、高いリスクを示します。これは地域の誇りへと変わっていきます。その誇りは、地域住民にも伝播していき、人口流出を阻止したり、他地域からの流入を促したりすることにもつながります。

X-salonは、参加者に「自己変革」をもたらす場であり、地域に「潤い」を与える場です。

既にアドベンチャートラベルに取り組んでいる地域や、観光活用されていないけれどユニークな産業を持っている地域、チャレンジで熱い思いを持った人物がいる地域、内省・対話に最適な焚き火ができるキャンプ場がある地域、都会では味わえない「不便さ」がある地域などは、X-salonに向いているかと思えます。ご関心があれば、X-salonのフィールドとしてご検討いただけましたら幸いです。